代表申請者のみ

所属長	所属科長	事務(局/部)長

令和4年4　月4　日

理事長　殿

学　長　殿

令和３年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関しまして、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ（KURepo）に公開する旨、承諾いたします。

カテゴリー	□開発・提案　／カテゴリ —No　４５
企画題目	近大病院内に文芸学部学生デザインによるソーシャルディスタンスのユニークなサインを！

研究代表者

所　属　文芸学部文化デザイン学科

職・氏名　教授・森口　ゆたか

令和３年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	近大病院内に文芸学部学生デザインによるソーシャルディスタンスのユニークなサインを！
研究者所属・氏名	研究代表者：森口　ゆたか 共同研究者：三井　良之(医学部教授）、杉本　圭相（医学部教授） 西隈　菜穂子（近畿大学病院）

．研究、開発・提案　目的及び内容

文芸学部文化デザイン学科ホスピタルアートゼミ（森口ゼミ）では、人々の健康とウェルビーイングに貢献する文化芸術活動を研究の軸としています。
具体的には病院に通院や入院生活を余儀なくされている患者やそのご家族、また医師や看護師、事務職員など療養環境に身を置くすべての人たちが、アートの力によって癒され　エンパワーメントされることを目的として研究し　活動を行っています

今回近大病院「院内サービス向上委員会」からコロナ感染予防対策のために院内のソーシャルディスタンス用のサインの作成を依頼されました。これまでのサインは病院スタッフの方がネット上で見つけ使用可能なものを印刷して使用していたので、デザイン的にもオリジナル性が乏しく　また素材も脆弱なもので、椅子の上に設置された多くのサインがめくれ上がって　かえって不衛生な印象を抱かせていました。

そこで当ホスピタルアートゼミの学生らが考えた新たなサインで、コロナ禍でより大きな不安感を抱いておられる患者やそのご家族、病院職員の方々に対して　注意喚起のみではなく、思わず笑顔がこぼれ　ホッと癒されていただけるような内容のデザインを考案した次第です。

．研究、開発・提案　経過及び成果

院内の椅子に700枚以上のソーシャルディスタンス用サインが貼られました　それらのサインは学生の発案により花言葉が添えられた様々な季節の花を用い　子犬やウサギなどの小動物のサインにもホッとするような言葉をそれぞれに添えました　結果患者様からは　ホッとできる」「癒される　等のお声を多く頂けました　前述の「院内サービス向上委員会」の席上でも、その成果が報告されました。

またこれらのサインの他にも病院の掲示物をこれまでのように各所に散乱して貼るのではなく、一カ所にまとめて掲示できるような大きな掲示板も各階にデザインし作成した事によって、院内の掲示物が見やすくなり、11月に実施された病院機能評価に於いても高得点を得られる結果に結びつきました

院内の掲示物というものは案外見落とされがちなのですが、さしたるチェック機関もない為、同じ掲示物が何年も貼られたまま放置されるケースが散見されます。今回これらの掲示物の根本的な見直しもされた為、不必要な掲示物は剥がされ　今必要とされる掲示物のみがすっきりと清潔感をもって貼られました。

．本研究と関連した今後の研究、開発・提案　計画

今年度から当ホスピタルアートゼミでは医学部1年生配当の授業である「ホスピタルアートによる患者ケア」を医学部学生と共同で取り組んでおります。オンライン授業ですが前期15回にわたる授業となり、医学部教育センタ　の池田行宏准教授　三井良之医学部教授、池田圭相医学部教授にも本授業に携わっていただいております。

ホスピタルアートを医学部生が学ぶことは正に本邦初の試みで　しかも今回文芸学部生と医学部生が共に一つの授業で学び合うことは画期的な試みといえます。現在各地の芸大美大に於いて

芸術と医療、芸術と福祉の分野が非常に注目を集めており、東京芸術大学でもこの分野の取り組みがなされていますが、近畿大学のような総合大学で且つ病院を擁している例は全国的にも少ない為、医学教育にも大きなインパクトを与えうるものと考えられます

研究成果の発表等

発　表　機　関　名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日（予定を含む）

5．研究、開発・提案　課題の成果発表等